

令和元年12月24日
総合企画部報道広報課
電話：043-223-2247

第58回 県政に関する世論調査の結果について

県政に関する世論調査は、県民の生活と県政の主要分野にわたる県民の関心、要望、意向などをとらえ、県政推進の基礎資料とすることを目的として、昭和50年度から毎年実施しています。

平成18年度から年2回実施しており、今回は令和元年度1回目の調査で県内在住の満18歳以上の男女3,000名を対象に実施しました。

具体的な内容としては、環境と生活、健康、福祉、観光、千葉県の農林水産物、防災に関する取り組み、地方分権、広報・広聴活動について県民の意識調査及び「県政への要望」についての調査を行いました。

1 調査の設計

(1) 調査対象 千葉県在住の満18歳以上の男女個人

(2) 標本数 3,000人

(3) 抽出方法 層化二段無作為抽出法

※層化二段無作為抽出法とは、行政単位と地域によって県内をブロックに分類し(層化)、各層に調査地点を人口に応じて比例配分し、国勢調査における調査区域及び住民基本台帳を利用して(二段)、各地点ごとに一定数のサンプル抽出を行うものである。

(4) 調査方法 郵送法・オンライン調査法の併用

(郵送配付－郵送・オンライン回収)

(5) 調査時期 令和元年8月23日～令和元年9月13日

2 回収結果

有効回収数(率) 1,461(48.7%)

3 調査の項目

(1) 県民意識調査

- ①環境と生活について
- ②健康について
- ③福祉について
- ④観光について
- ⑤千葉県の農林水産物について
- ⑥防災に関する取り組みについて
- ⑦地方分権について
- ⑧広報・広聴活動について

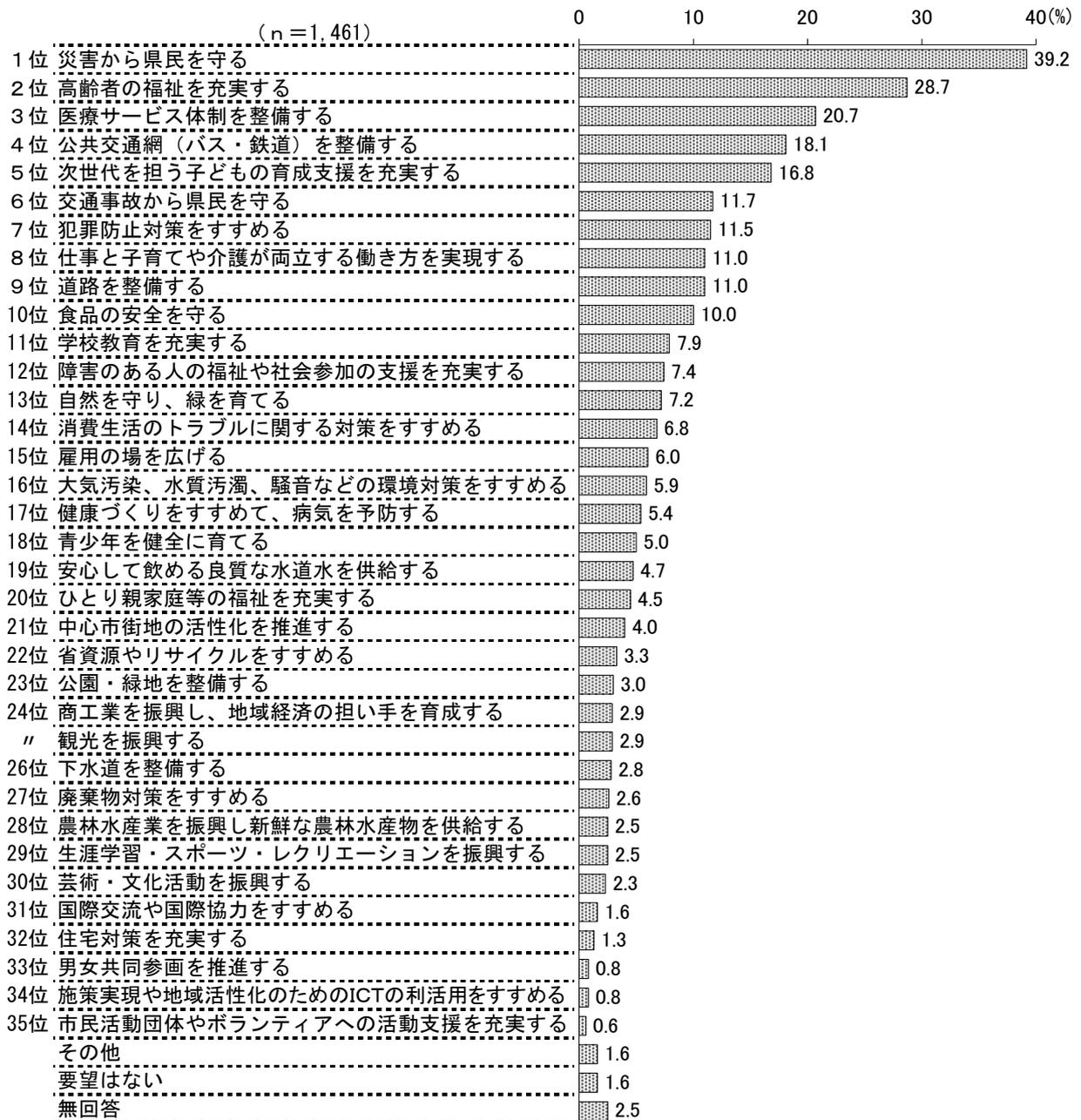
(2) 県政への要望

4 調査の結果

1 県政への要望

(1) 県政への要望

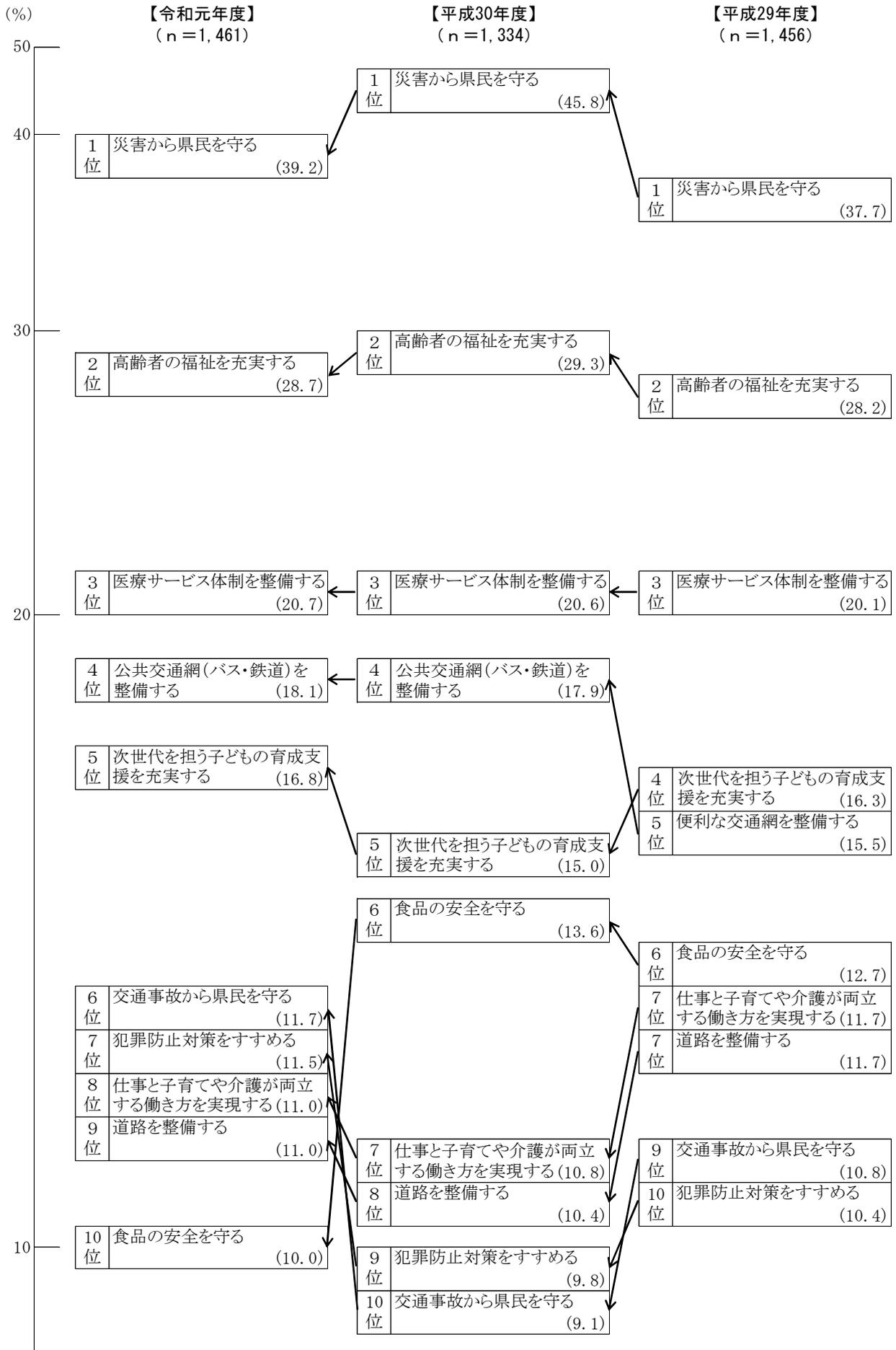
(複数回答：3つまで)



今回調査の主な特徴

1. 「災害から県民を守る」は平成30年度（45.8%）に引き続き1位（39.2%）で、6.6ポイント減少している。
2. 2位の「高齢者の福祉を充実する」（28.7%）、3位の「医療サービス体制を整備する」（20.7%）、4位の「公共交通網（バス・鉄道）を整備する」（18.1%）、5位の「次世代を担う子どもの育成支援を充実する」（16.8%）は平成30年度と同じ順位となっている。
3. 「交通事故から県民を守る」は平成30年度の10位（9.1%）から6位（11.7%）へ、「犯罪防止対策をすすめる」は平成30年度の9位（9.8%）から7位（11.5%）へ順位を上げている。
4. 「食品の安全を守る」は平成30年度の6位（13.6%）から10位（10.0%）へ順位を下げている。

■ 県政への要望／上位10項目の推移

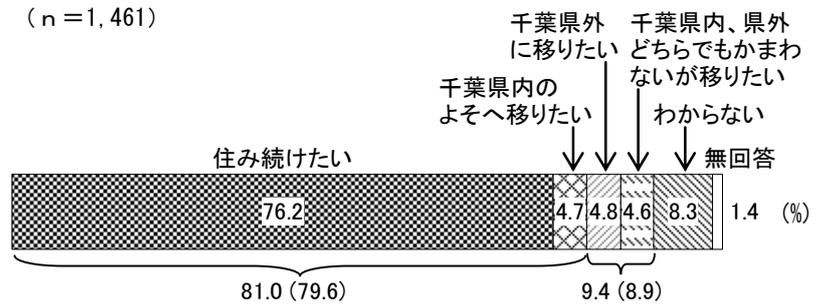


2 環境と生活について

(1) 今後の居留意向

現在お住まいの地域の今後の居留意向を聞いたところ、「住み続けたい」(76.2%)が7割台半ばで、これと「千葉県内のよそへ移りたい」(4.7%)を合わせた『千葉県内に住み続けたい(計)』(81.0%)が8割を超えて高くなっている。

一方、「千葉県外に移りたい」(4.8%)と「千葉県内、県外どちらでもかまわないが移りたい」(4.6%)を合わせた『移りたい(計)』(9.4%)が1割未満である。

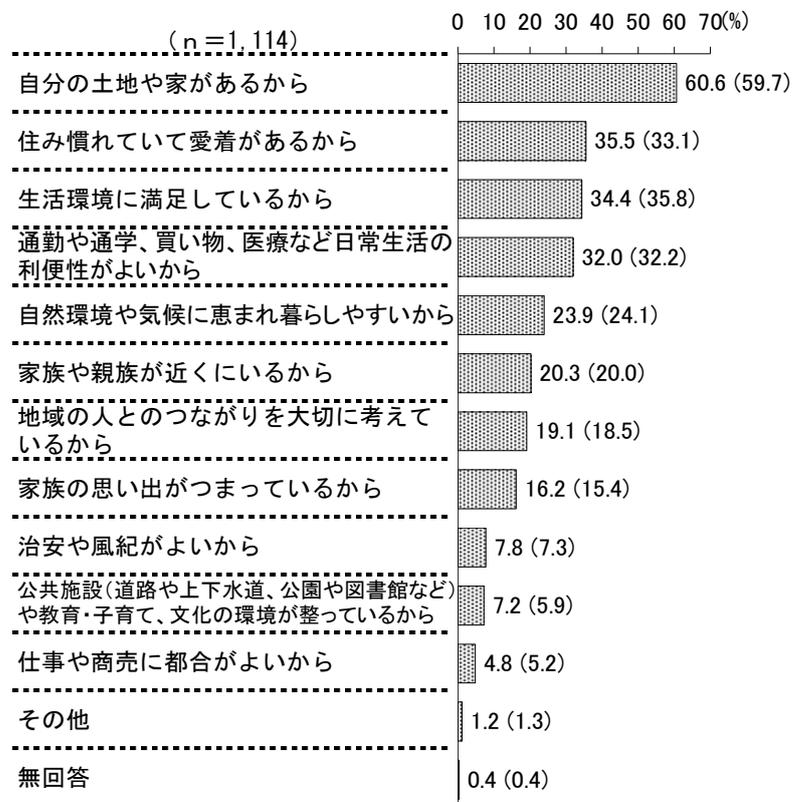


注) 下段の () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

(1-1) 住み続けたい理由

(複数回答：3つまで)

「住み続けたい」と回答した1,114人を対象に、住み続けたい理由を3つまで選んでもらったところ、「自分の土地や家があるから」(60.6%)が6割で最も高く、以下、「住み慣れていて愛着があるから」(35.5%)、「生活環境に満足しているから」(34.4%)が続く。

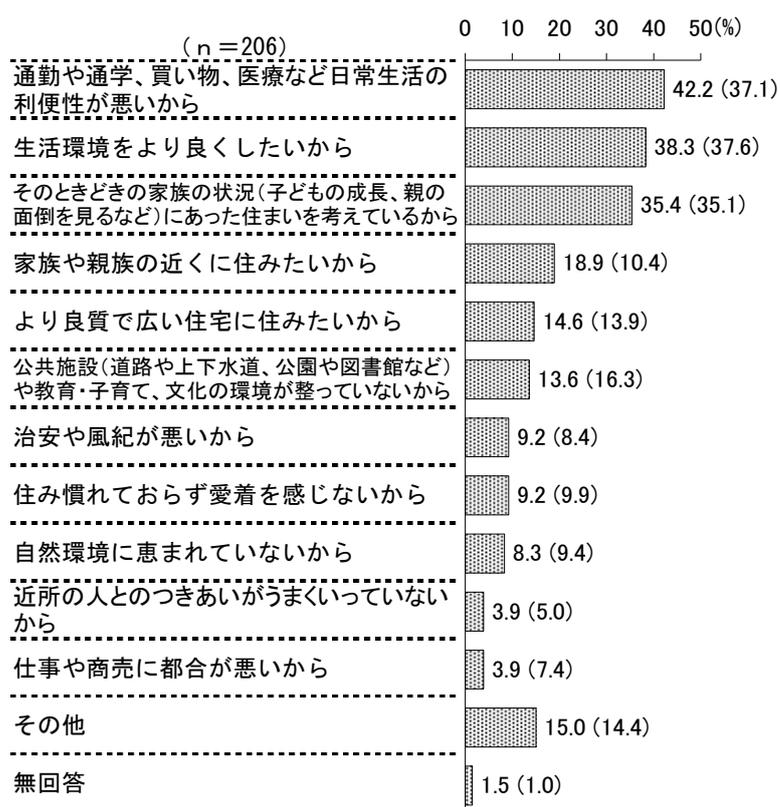


注) () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

(1-2) 移りたい理由

(複数回答：3つまで)

「千葉県内のよそへ移りたい」、「千葉県外に移りたい」、「千葉県内、県外どちらでもかまわないが移りたい」と回答した206人を対象に、移りたい理由を3つまで選んでもらったところ、「通勤や通学、買い物、医療など日常生活の利便性が悪いから」(42.2%)が4割を超えて最も高く、以下、「生活環境をより良くしたいから」(38.3%)、「そのときどきの家族の状況(子どもの成長、親の面倒を見るなど)にあった住まいを考えているから」(35.4%)が続く。

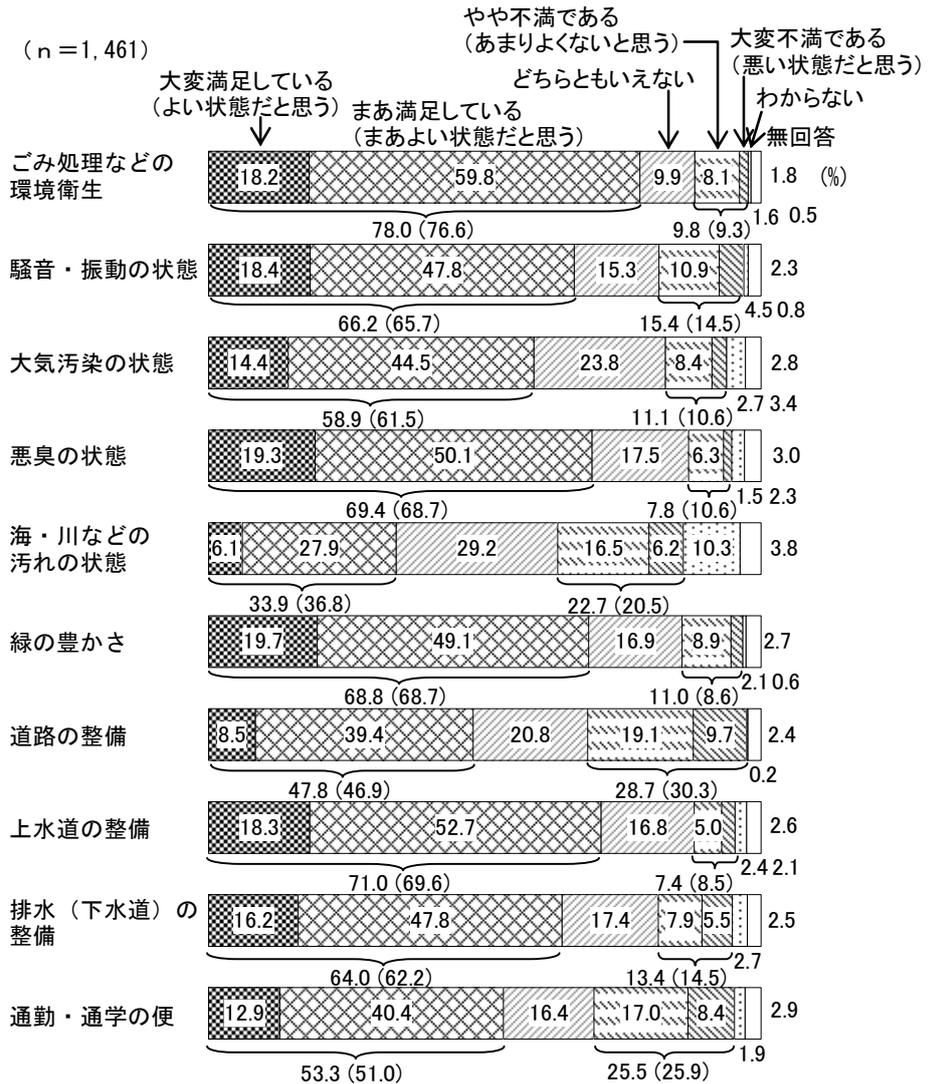


注) () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

(2) 現在の生活の満足度

現在の生活に関する10個の項目について、それぞれの満足度を聞いたところ、「大変満足している（よい状態だと思う）」と「まあ満足している（まあよい状態だと思う）」を合わせた『満足している（計）』が最も高いのは、〈ごみ処理などの環境衛生〉（78.0%）で約8割となっており、以下、〈上水道の整備〉（71.0%）が7割を超え、〈悪臭の状態〉（69.4%）、〈緑の豊かさ〉（68.8%）が約7割で続く。

一方、「やや不満である（あまりよくないと思う）」と「大変不満である（悪い状態だと思う）」を合わせた『不満である（計）』が最も高いのは、〈道路の整備〉（28.7%）で約3割となっており、以下、〈通勤・通学の便〉（25.5%）が2割台半ば、〈海・川などの汚れの状態〉（22.7%）が2割を超えて続く。

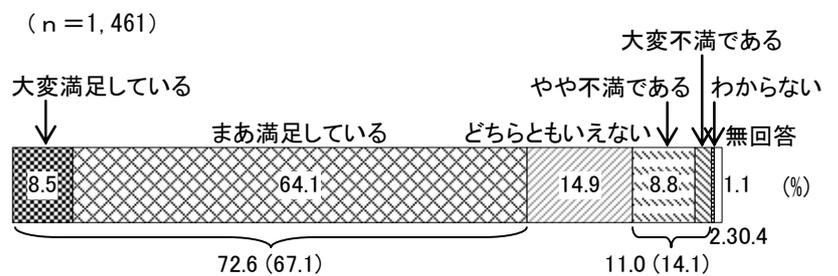


注) 下段の () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

(3) 住生活全般の満足度

現在の住生活全般（住まい・環境・地域社会）について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」（8.5%）と「まあ満足している」（64.1%）を合わせた『満足している（計）』（72.6%）が7割を超えて高くなっている。

一方、「やや不満である」（8.8%）と「大変不満である」（2.3%）を合わせた『不満である（計）』（11.0%）が1割を超えている。

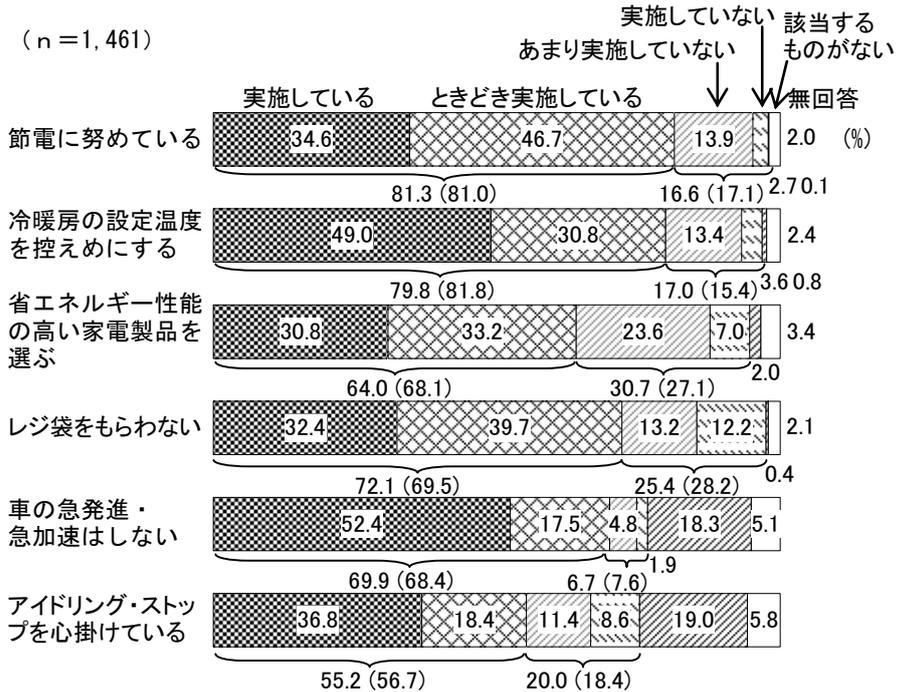


注) 下段の () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

(4) 普段の生活で行っている環境保全の取組

普段の生活で行っている環境保全の取組に関する6つの項目について、それぞれの実施状況を聞いたところ、「実施している」と「ときどき実施している」を合わせた『実施している(計)』が最も高いのは、〈節電に努めている〉(81.3%)で8割を超えており、以下、〈冷暖房の設定温度を控えめにする〉(79.8%)が約8割、〈レジ袋をもらわない〉(72.1%)が7割を超え、〈車の急発進・急加速はしない〉(69.9%)が約7割で続く。

一方、「あまり実施していない」と「実施していない」を合わせた『実施していない(計)』が最も高いのは、〈省エネルギー性能の高い家電製品を選ぶ〉(30.7%)で3割となっており、以下、〈レジ袋をもらわない〉(25.4%)が2割台半ば、〈アイドリング・ストップを心掛けている〉(20.0%)が2割で続く。

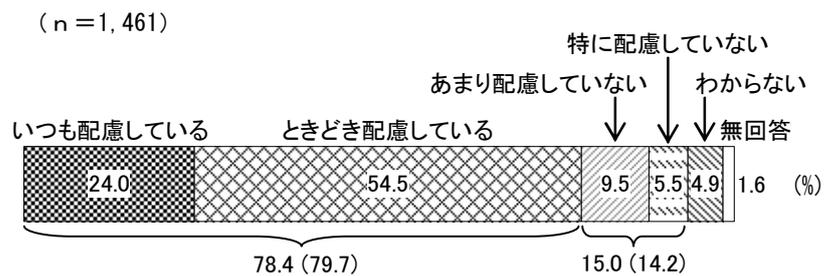


注) 下段の () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

(5) 環境に配慮した行動

日常生活の中で環境に配慮して行動しているか聞いたところ、「いつも配慮している」(24.0%)と「ときどき配慮している」(54.5%)を合わせた『配慮している(計)』(78.4%)が約8割で高くなっている。

一方、「あまり配慮していない」(9.5%)と「特に配慮していない」(5.5%)を合わせた『配慮していない(計)』(15.0%)が1割台半ばとなっている。

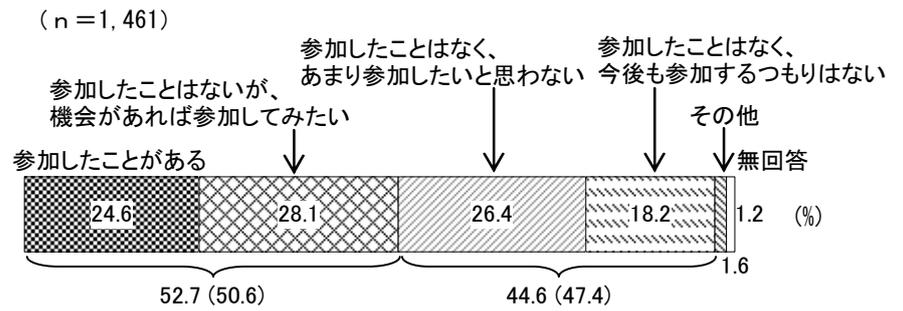


注) 下段の () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

(6) 環境保全に関する講演やセミナー、環境ボランティアへの参加状況

環境保全に関する講演やセミナー、環境ボランティアへの参加状況を聞いたところ、「参加したことがある」(24.6%)が2割台半ばとなっており、これと「参加したことはないが、機会があれば参加してみたい」(28.1%)を合わせた『参加意向あり(計)』(52.7%)が5割を超えている。

一方、「参加したことはなく、あまり参加したいと思わない」(26.4%)と「参加したことはなく、今後も参加するつもりはない」(18.2%)を合わせた『参加意向なし(計)』(44.6%)が4割台半ばとなっている。

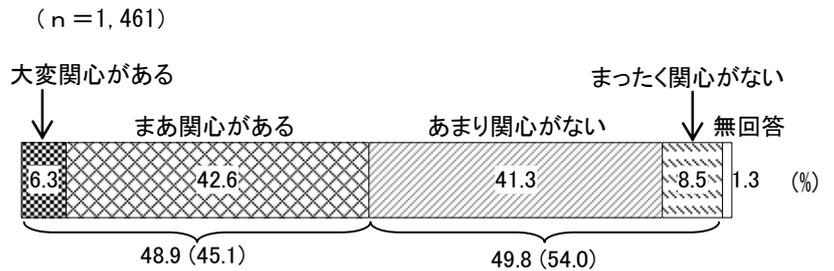


注) 下段の () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

(7) 市民活動団体やボランティア活動の関心度

市民活動団体の活動や、ボランティア活動の関心度を聞いたところ、「大変関心がある」(6.3%)と「まあ関心がある」(42.6%)を合わせた『関心がある(計)』(48.9%)が約5割となっている。

一方、「あまり関心がない」(41.3%)と「まったく関心がない」(8.5%)を合わせた『関心がない(計)』(49.8%)が約5割となっている。

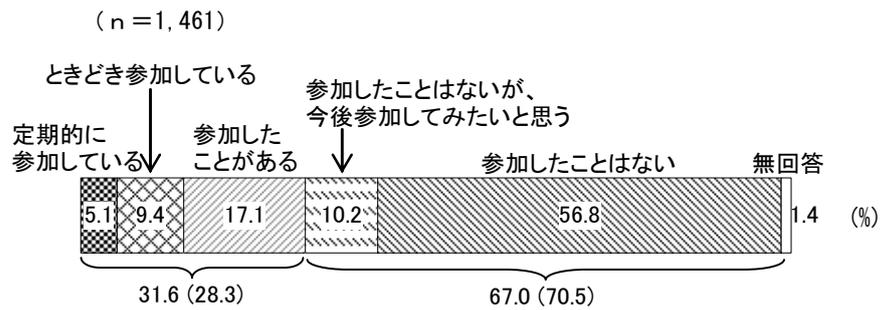


注) 下段の () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

(8) 市民活動団体の活動への参加経験

市民活動団体の活動への参加経験を聞いたところ、「定期的に参加している」(5.1%)、「ときどき参加している」(9.4%)、「参加したことがある」(17.1%)の3つを合わせた『参加したことがある(計)』(31.6%)が3割を超えている。

一方、「参加したことはないが、今後参加してみたいと思う」(10.2%)と「参加したことはない」(56.8%)を合わせた『参加したことはない(計)』(67.0%)が約7割で高くなっている。

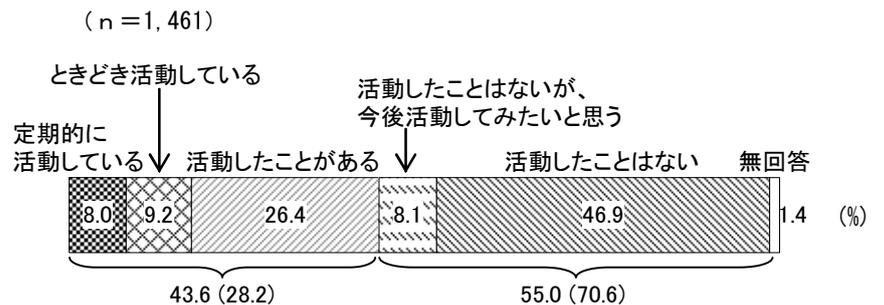


注) 下段の () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

(9) ボランティア活動経験

ボランティアとして活動したことがあるか聞いたところ、「定期的に参加している」(8.0%)、「ときどき活動している」(9.2%)、「活動したことがある」(26.4%)の3つを合わせた『活動したことがある(計)』(43.6%)が4割台半ばとなっている。

一方、「活動したことはないが、今後活動してみたいと思う」(8.1%)と「活動したことはない」(46.9%)を合わせた『活動したことはない(計)』(55.0%)が5割台半ばとなっている。



注) 下段の () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

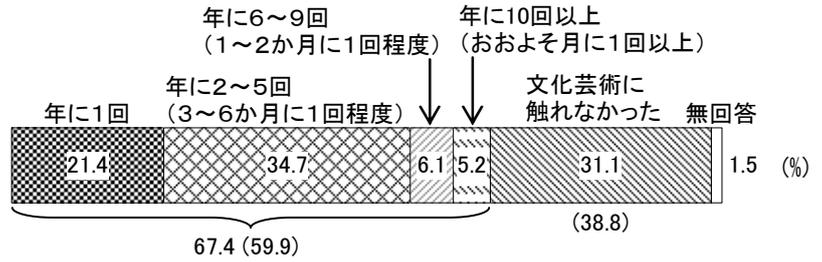
(※) 今回の調査では、「ボランティア活動」の説明を変更した。

(10) この1年間の文化芸術に触れた頻度

この1年間で何回くらい文化芸術に触れたか聞いたところ、「年に1回」(21.4%)、「年に2～5回(3～6か月に1回程度)」(34.7%)、「年に6～9回(1～2か月に1回程度)」(6.1%)、「年に10回以上(おおよそ月に1回以上)」(5.2%)の4つを合わせた『触れたことがある(計)』(67.4%)が約7割で高くなっている。

一方、「文化芸術に触れなかった」(31.1%)が3割を超えている。

(n=1,461)



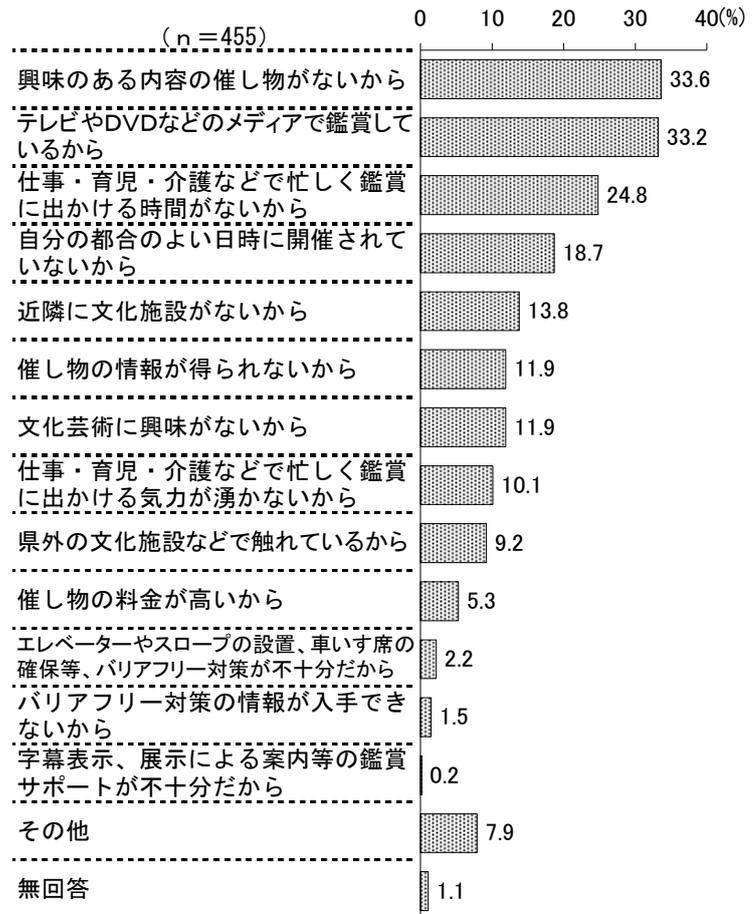
注) 下段の () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

(※) 今回の調査では、「文化芸術」の説明を変更した。

(10-1) 文化芸術に触れなかった理由

(複数回答：いくつでも)

「文化芸術に触れなかった」と回答した455人を対象に、文化芸術に触れなかった理由を聞いたところ、「興味のある内容の催し物がないから」(33.6%)が3割台半ばで最も高く、以下、「テレビやDVDなどのメディアで鑑賞しているから」(33.2%)、「仕事・育児・介護などで忙しく鑑賞に出かける時間がないから」(24.8%)が続く。

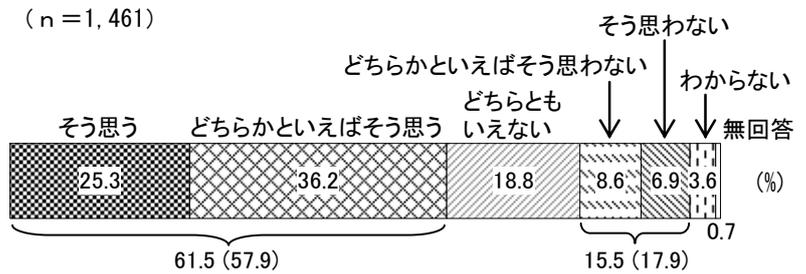


3 健康について

(1) 健康づくりに取り組むことができる環境

自分が積極的に健康づくりに取り組むことができる環境にあると思うか聞いたところ、「そう思う」(25.3%)と「どちらかといえばそう思う」(36.2%)を合わせた『そう思う(計)』(61.5%)が6割を超えて高くなっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(8.6%)と「そう思わない」(6.9%)を合わせた『そう思わない(計)』(15.5%)が1割台半ばとなっている。

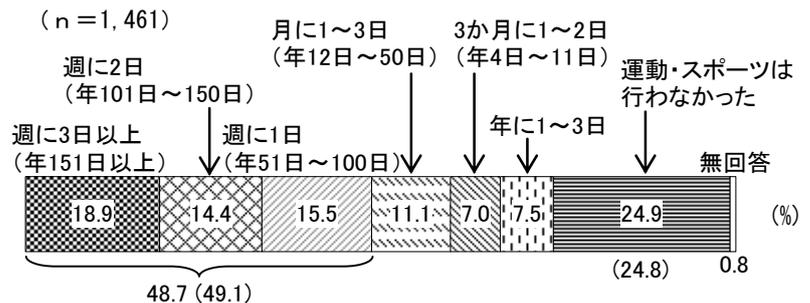


注) 下段の () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

(2) 健康づくりのための運動

健康づくりなどのために1年間に何日くらい運動やスポーツを行ったか聞いたところ、「週に3日以上(年151日以上)」(18.9%)、「週に2日(年101日~150日)」(14.4%)、「週に1日(年51日~100日)」(15.5%)の3つを合わせた『週1日以上運動した(計)』(48.7%)が約5割となっている。

一方、「運動・スポーツは行わなかった」(24.9%)が2割台半ばとなっている。

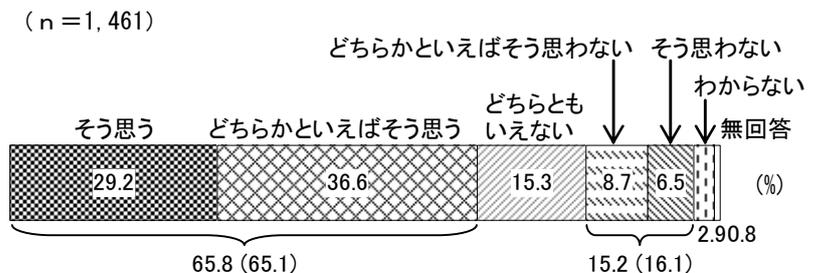


注) 下段の () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

(3) 安心して受診できる医療体制

住み慣れた地域で安心して受診できる医療体制にあると思うか聞いたところ、「そう思う」(29.2%)と「どちらかといえばそう思う」(36.6%)を合わせた『そう思う(計)』(65.8%)が6割台半ばで高くなっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(8.7%)と「そう思わない」(6.5%)を合わせた『そう思わない(計)』(15.2%)が1割台半ばとなっている。



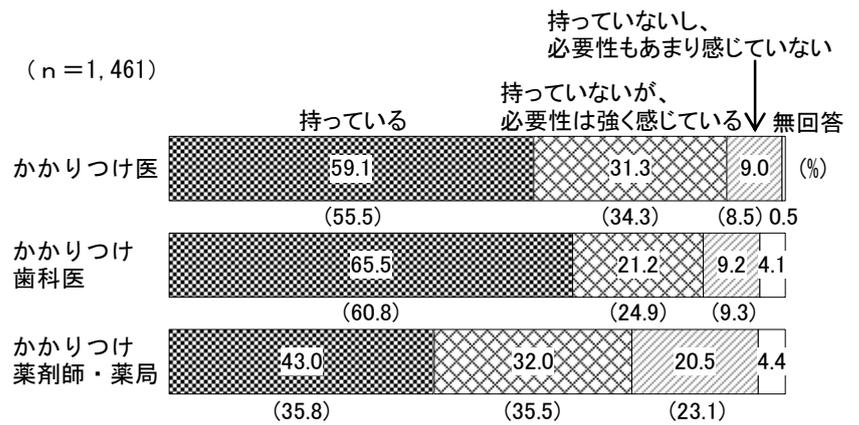
注) 下段の () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

(4) かかりつけ医の有無

かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬剤師・薬局を持っているかどうかを聞いたところ、「持っている」は〈かかりつけ歯科医〉(65.5%)が6割台半ば、〈かかりつけ医〉(59.1%)が約6割、〈かかりつけ薬剤師・薬局〉(43.0%)が4割を超えている。

また、「持っていないが、必要性は強く感じている」は〈かかりつけ薬剤師・薬局〉(32.0%)と〈かかりつけ医〉(31.3%)が3割を超えている。

「持っていないし、必要性もあまり感じていない」は〈かかりつけ薬剤師・薬局〉(20.5%)が2割となっている。



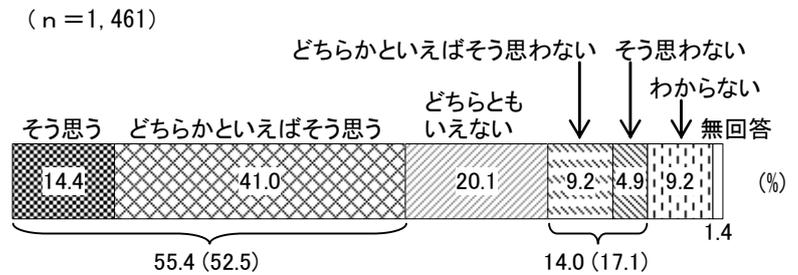
注) 下段の () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

4 福祉について

(1) 安心して子育てできる環境

自分が安心して子育てできる環境にあると思うか聞いたところ、「そう思う」(14.4%)と「どちらかといえばそう思う」(41.0%)を合わせた『そう思う(計)』(55.4%)が5割台半ばで高くなっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(9.2%)と「そう思わない」(4.9%)を合わせた『そう思わない(計)』(14.0%)が1割台半ばとなっている。

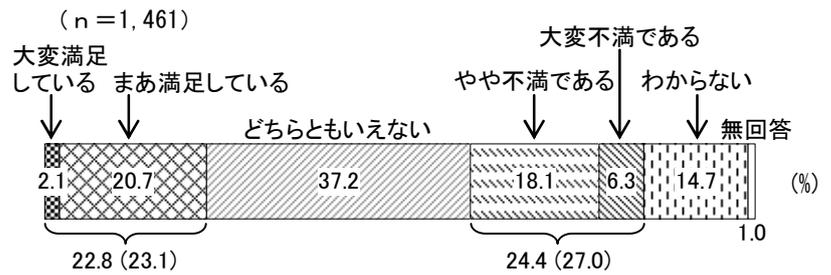


注) 下段の () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

(2) お年寄りが安心して暮らせる高齢者施策について

お年寄りが安心して暮らせる高齢者施策について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」(2.1%)と「まあ満足している」(20.7%)を合わせた『満足している(計)』(22.8%)が2割を超えている。

一方、「やや不満である」(18.1%)と「大変不満である」(6.3%)を合わせた『不満である(計)』(24.4%)が2割台半ばとなっている。

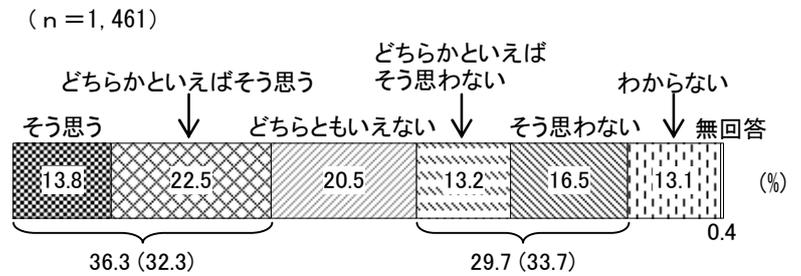


注) 下段の () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

(3) 介護が必要になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられるか

自分が介護の必要な状況になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられると思うか聞いたところ、「そう思う」(13.8%)と「どちらかといえばそう思う」(22.5%)を合わせた『そう思う(計)』(36.3%)が3割台半ばとなっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(13.2%)と「そう思わない」(16.5%)を合わせた『そう思わない(計)』(29.7%)は約3割となっている。

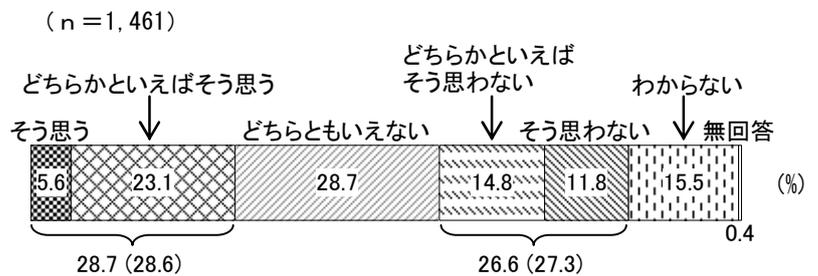


注) 下段の () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

(4) 高齢者の社会参加について

高齢者が多様な社会参加を通じ、社会と関わりを持ちながら生活を送っていると思うか聞いたところ、「そう思う」(5.6%)と「どちらかといえばそう思う」(23.1%)を合わせた『そう思う(計)』(28.7%)が約3割となっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(14.8%)と「そう思わない」(11.8%)を合わせた『そう思わない(計)』(26.6%)が2割台半ばとなっている。

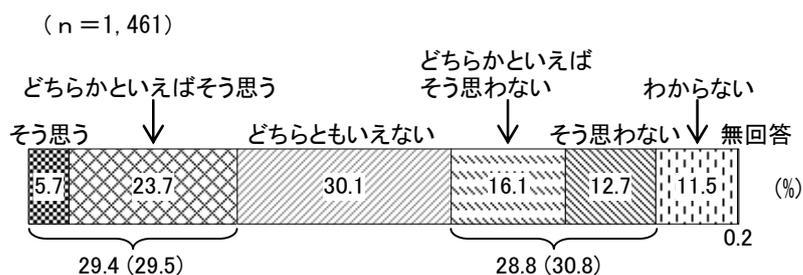


注) 下段の () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

(5) 安心して暮らせる地域社会づくりについて

地域住民が互いに支え合い、安心して暮らせる地域社会づくりが進められていると思うか聞いたところ、「そう思う」(5.7%)と「どちらかといえばそう思う」(23.7%)を合わせた『そう思う(計)』(29.4%)が約3割となっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(16.1%)と「そう思わない」(12.7%)を合わせた『そう思わない(計)』(28.8%)が約3割となっている。

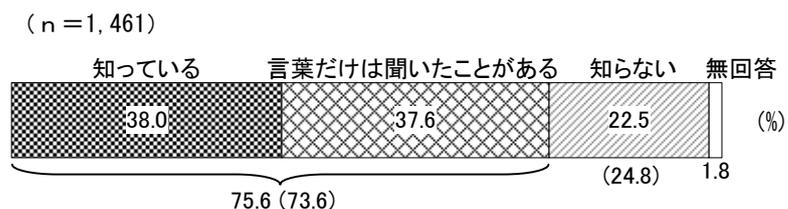


注) 下段の () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

(6) 「共生社会」の認知度

「共生社会」という考え方を知っているか聞いたところ、「知っている」(38.0%)と「言葉だけは聞いたことがある」(37.6%)を合わせた『聞いたことがある(計)』(75.6%)が7割台半ばで高くなっている。

一方、「知らない」(22.5%)が2割を超えている。



注) 下段の () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

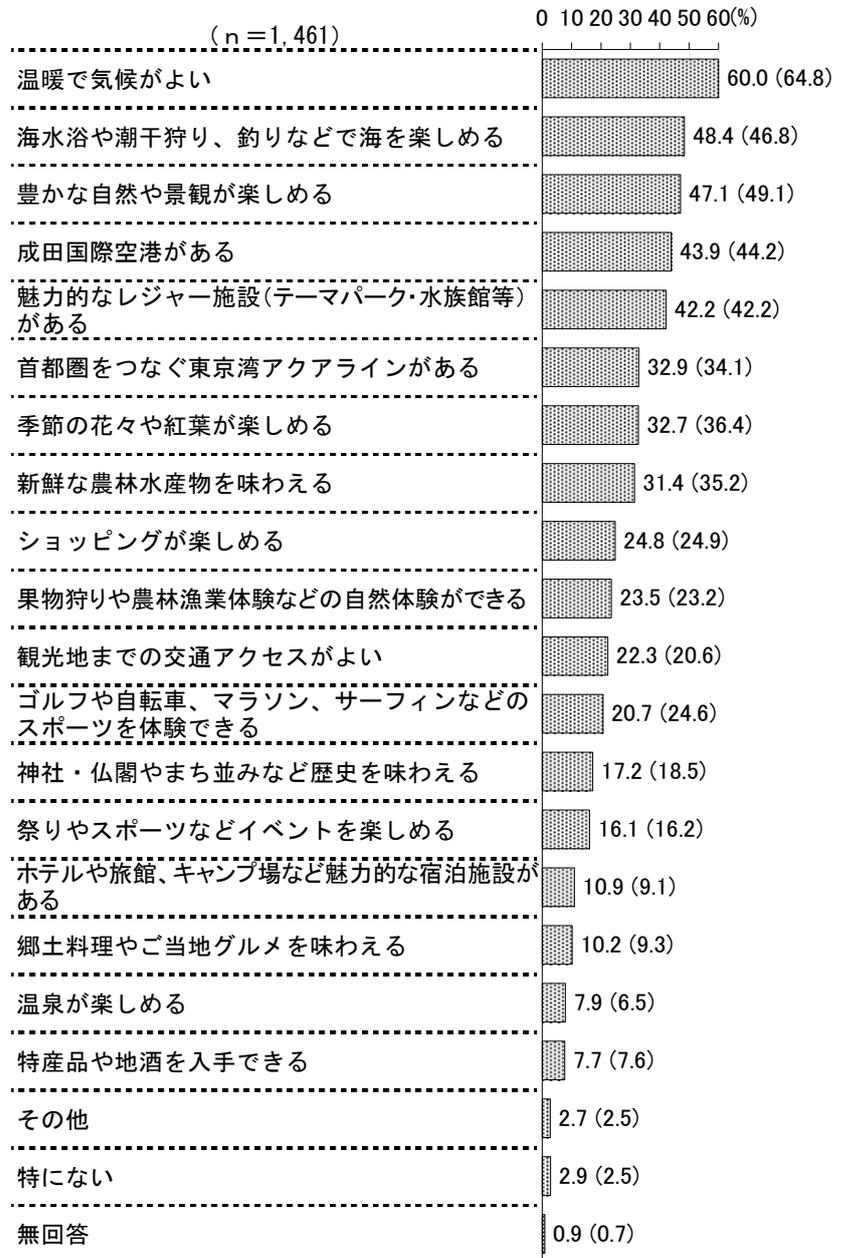
(※) 今回の調査では、「共生社会」について説明する文言を削除した。

5 観光について

(1) 千葉県の魅力

(複数回答：いくつでも)

千葉県の魅力は何だと思うか聞いたところ、「温暖で気候がよい」(60.0%)が6割で最も高く、以下、「海水浴や潮干狩り、釣りなどで海を楽しめる」(48.4%)、「豊かな自然や景観を楽しめる」(47.1%)、「成田国際空港がある」(43.9%)が続く。

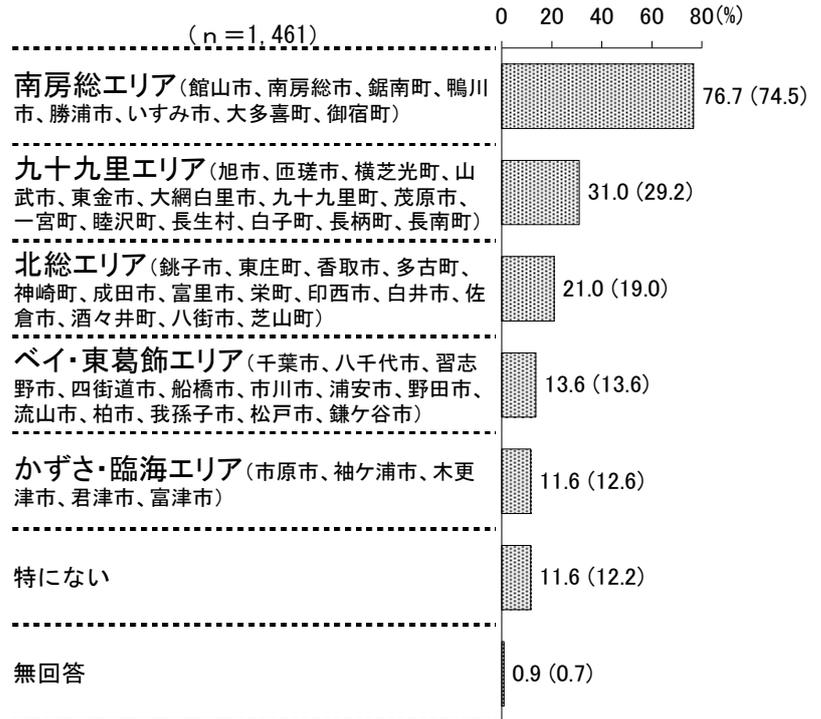


注) () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

(2) 県内で旅行に行きたいエリア

(複数回答：いくつでも)

県内で旅行に行きたいエリアはどこか聞いたところ、「南房総エリア」(76.7%)が7割台半ばで最も高く、以下、「九十九里エリア」(31.0%)、「北総エリア」(21.0%)、「ベイ・東葛飾エリア」(13.6%)、「かずさ・臨海エリア」(11.6%)が続く。

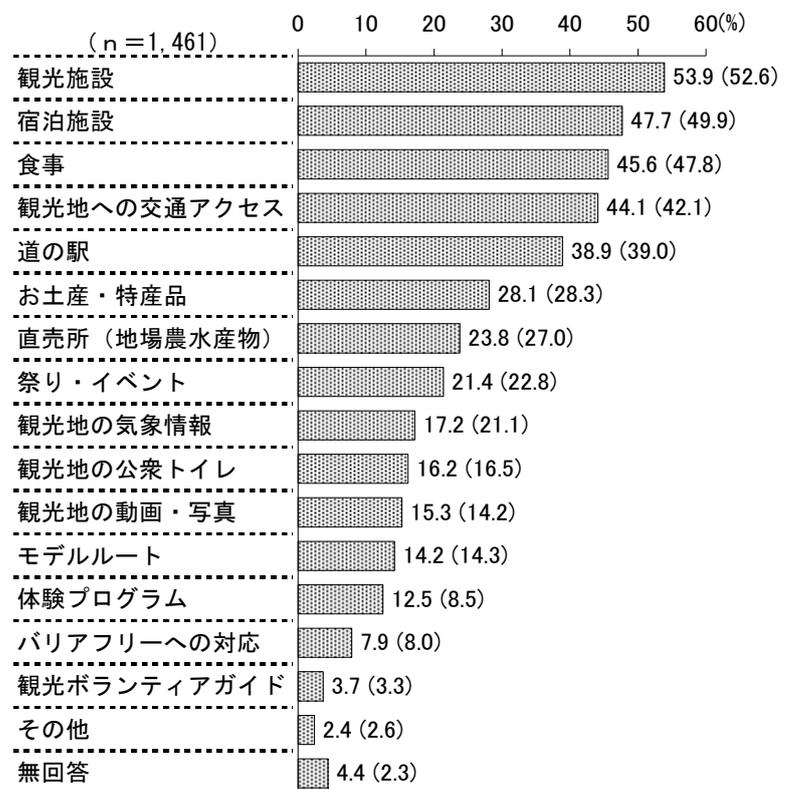


注) () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

(3) 県内を観光する際に事前に知りたい情報

(複数回答：いくつでも)

県内を観光する際に事前に知りたい情報は何か聞いたところ、「観光施設」(53.9%)が5割台半ばで最も高く、以下、「宿泊施設」(47.7%)、「食事」(45.6%)が続く。

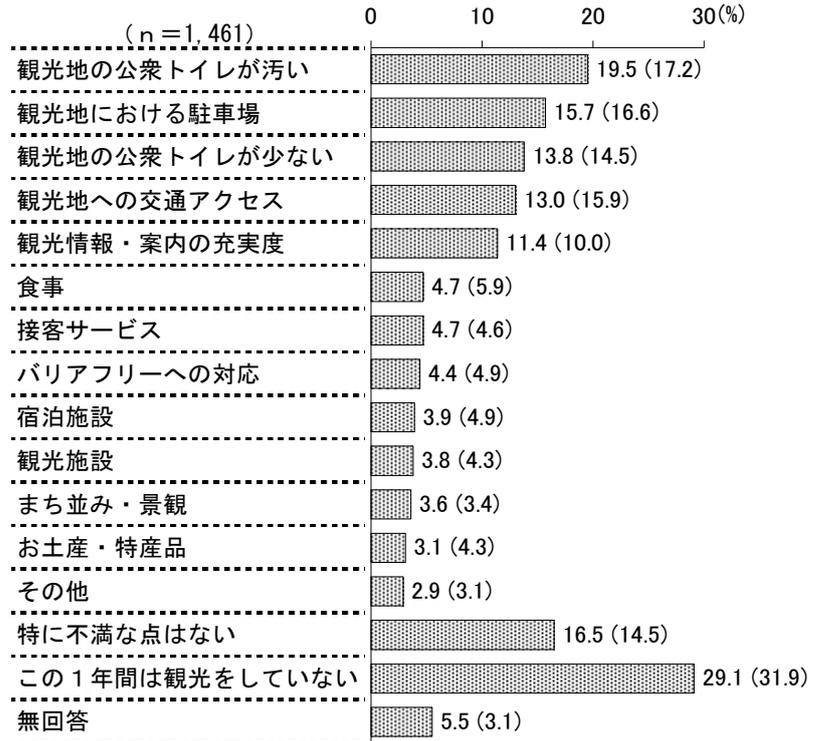


注) () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

(4) この1年間に県内を観光した際の不満

(複数回答：いくつでも)

この1年間で県内を観光した際に不満を感じたことを聞いたところ、「観光地の公衆トイレが汚い」(19.5%)が約2割で最も高く、以下、「観光地における駐車場」(15.7%)、「観光地の公衆トイレが少ない」(13.8%)、「観光地への交通アクセス」(13.0%)、「観光情報・案内の充実度」(11.4%)、「食事」(4.7%)が続く。

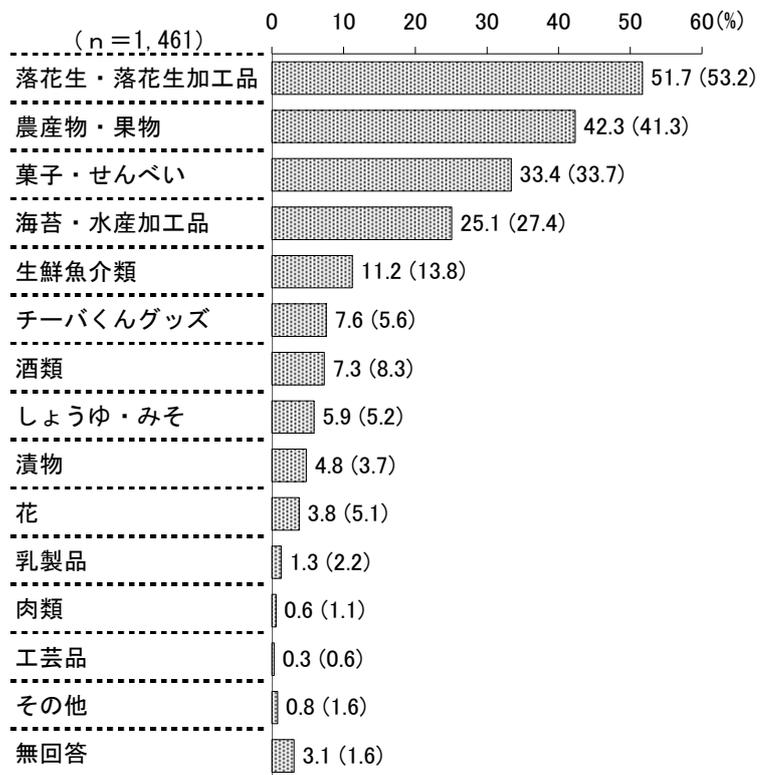


注) () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

(5) 県産品をお土産や贈答品として使う場合、贈るもの

(複数回答：3つまで)

県産品をお土産や贈答品として使う場合、何を贈るか3つまで選んでもらったところ、「落花生・落花生加工品」(51.7%)が5割を超えて最も高く、以下、「農産物・果物」(42.3%)、「菓子・せんべい」(33.4%)、「海苔・水産加工品」(25.1%)が続く。



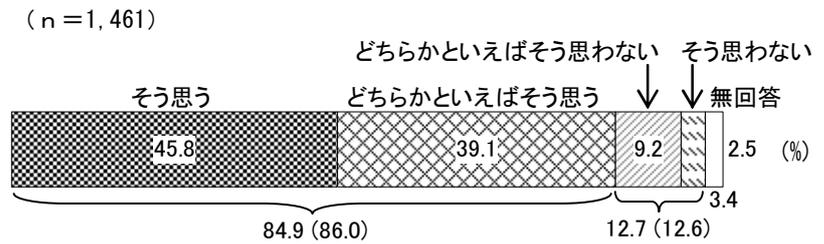
注) () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

6 千葉県の農林水産物について

(1) 千葉県産農林水産物の購入意向

千葉県産農林水産物を購入したいと思うか聞いたところ、「そう思う」(45.8%)と「どちらかといえばそう思う」(39.1%)を合わせた『そう思う(計)』(84.9%)が8割台半ばで高くなっている。

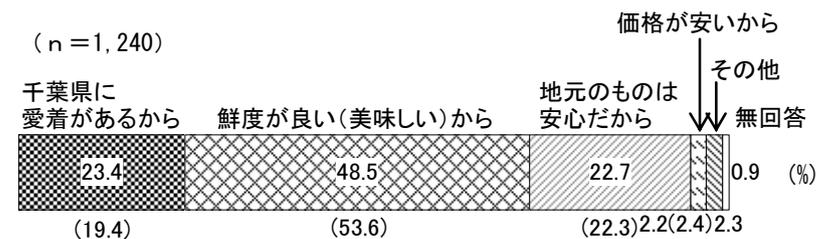
一方、「どちらかといえばそう思わない」(9.2%)と「そう思わない」(3.4%)を合わせた『そう思わない(計)』(12.7%)は1割を超えている。



注) 下段の () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

(1-1) 千葉県産農林水産物を購入したいと思う理由

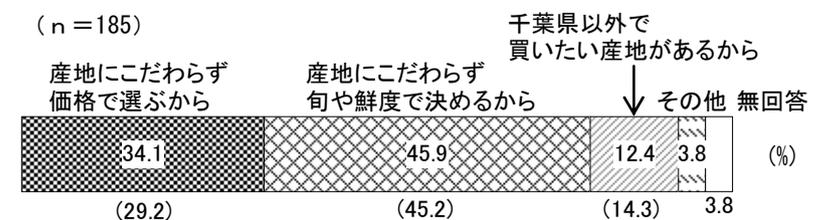
千葉県産農林水産物を購入したいと回答した1,240人を対象に、その主な理由を聞いたところ、「鮮度が良い(美味しい)から」(48.5%)が約5割で最も高く、以下、「千葉県に愛着があるから」(23.4%)、「地元のもの安心だから」(22.7%)、「価格が安いから」(2.2%)が続く。



注) 下段の () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

(1-2) 千葉県産農林水産物を購入したいと思わない理由

千葉県産農林水産物を購入したいと思わないと回答した185人を対象に、その主な理由を聞いたところ、「産地にこだわらず旬や鮮度で決めるから」(45.9%)が4割台半ばで最も高く、以下、「産地にこだわらず価格で選ぶから」(34.1%)、「千葉県以外で買いたい産地があるから」(12.4%)が続く。

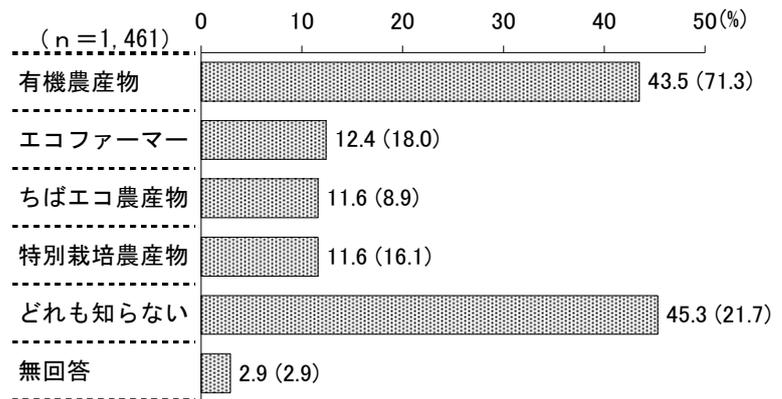


注) 下段の () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

(2) 環境にやさしい農産物や制度の認知度

(複数回答：いくつでも)

農薬や化学肥料の使用量の低減などに取り組む農業者や農産物を認証する制度を聞いたことがあるか聞いたところ、「有機農産物」(43.5%)が4割台半ばで最も高く、以下、「エコファーマー」(12.4%)、「ちばエコ農産物」(11.6%)、「特別栽培農産物」(11.6%)が続く。

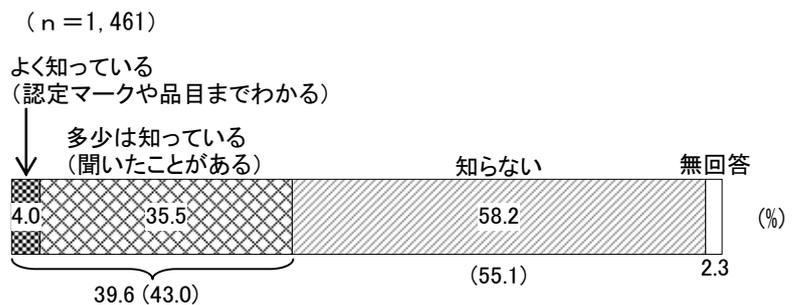


注) () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

(3) 「千葉ブランド水産物」の認知度

「千葉ブランド水産物」を知っているか聞いたところ、「よく知っている(認定マークや品目までわかる)」(4.0%)と「多少は知っている(聞いたことがある)」(35.5%)を合わせた『知っている(計)』(39.6%)が約4割となっている。

一方、「知らない」(58.2%)が約6割となっている。



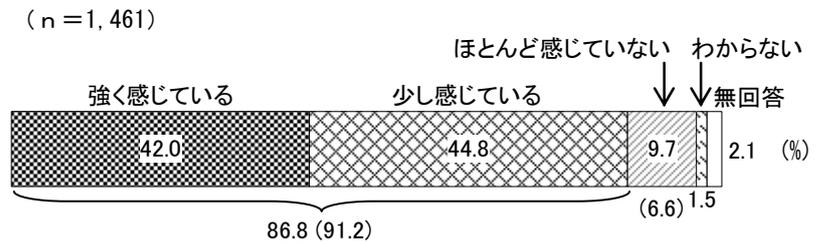
注) 下段の () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

7 防災に関する取り組みについて

(1) 大地震や風水害への不安

大地震や風水害への不安を聞いたところ、「強く感じている」(42.0%)と「少し感じている」(44.8%)を合わせた『感じている(計)』(86.8%)が8割台半ばで高くなっている。

一方、「ほとんど感じていない」(9.7%)が1割未満となっている。

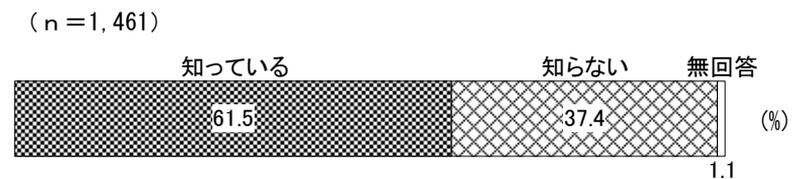


注) 下段の () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

(2) 水害・土砂災害の防災情報を5段階の「警戒レベル」を用いて伝える方法に変わったことの認知度

水害・土砂災害の防災情報の伝え方が、レベル3で「高齢者等は避難」、レベル4で「全員避難」といった、5段階の「警戒レベル」を用いる方法に変わったことを知っているか聞いたところ、「知っている」(61.5%)が6割を超えて高くなっている。

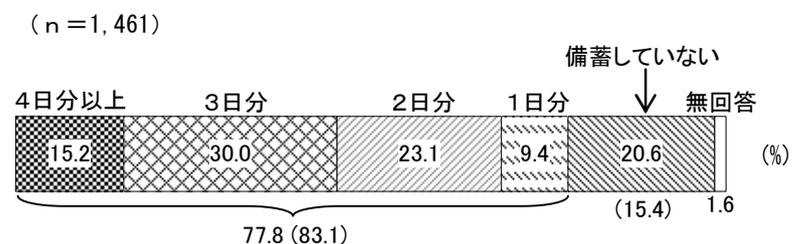
一方、「知らない」(37.4%)が約4割となっている。



(3) 飲料水や食料の備蓄状況

飲料水や食料の備蓄状況を聞いたところ、「4日分以上」(15.2%)、「3日分」(30.0%)、「2日分」(23.1%)、「1日分」(9.4%)の4つを合わせた『備蓄している(計)』(77.8%)が約8割で高くなっている。

一方、「備蓄していない」(20.6%)が2割となっている。

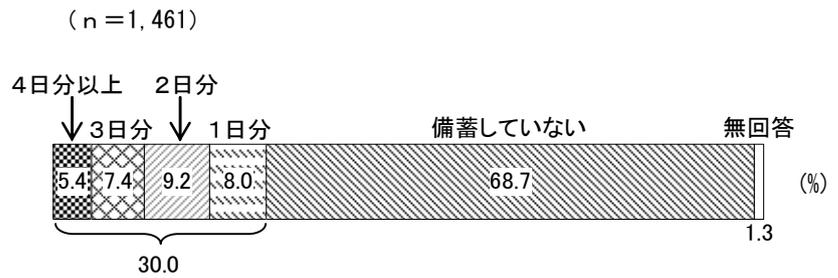


注) 下段の () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

(4) 災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）の備蓄状況

災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）の備蓄状況を聞いたところ、「4日分以上」（5.4%）、「3日分」（7.4%）、「2日分」（9.2%）、「1日分」（8.0%）の4つを合わせた『備蓄している（計）』（30.0%）が3割となっている。

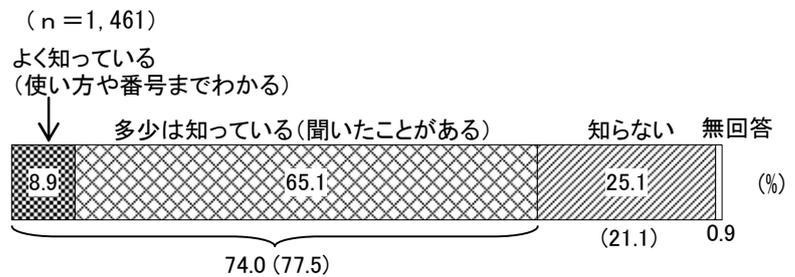
一方、「備蓄していない」（68.7%）が約7割となっている。



(5) 災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度

災害伝言板・災害用伝言ダイヤルを知っているか聞いたところ、「よく知っている（使い方や番号までわかる）」（8.9%）と「多少は知っている（聞いたことがある）」（65.1%）を合わせた『知っている（計）』（74.0%）が7割台半ばで高くなっている。

一方、「知らない」（25.1%）が2割台半ばとなっている。

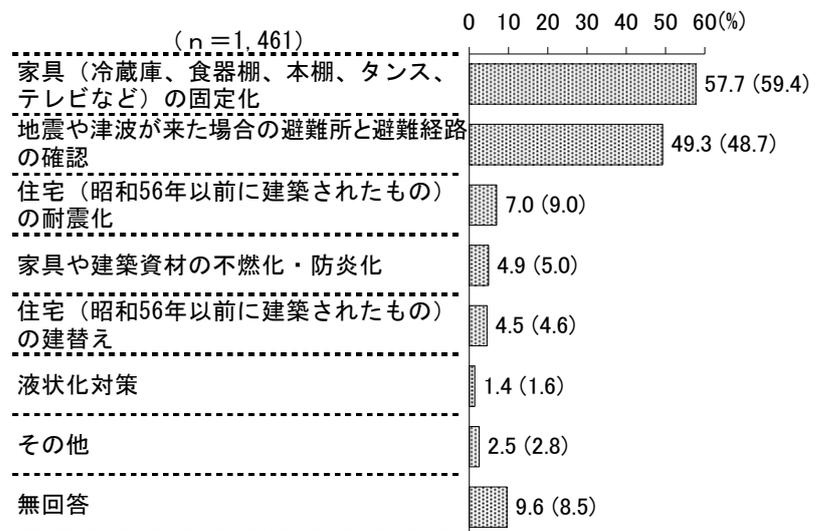


注) 下段の（ ）書きは、平成30年度の調査結果を示している。

(6) 地震の被害を防ぐための対策

（複数回答：いくつでも）

地震の被害を防ぐため、どのような対策を行っている（行う予定）か聞いたところ、「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」（57.7%）が約6割で最も高く、以下、「地震や津波が来た場合の避難所と避難経路の確認」（49.3%）、「住宅（昭和56年以前に建築されたもの）の耐震化」（7.0%）が続く。



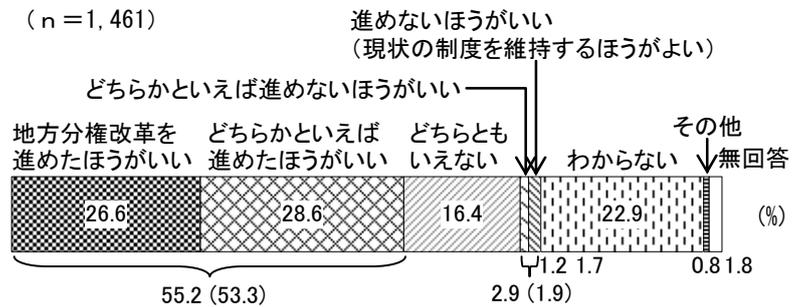
注)（ ）書きは、平成30年度の調査結果を示している。

8 地方分権について

(1) 地方分権改革を進めることについて

地方分権改革を進めることについて聞いたところ、「地方分権改革を進めたほうがいい」(26.6%)と「どちらかといえば進めたほうがいい」(28.6%)を合わせた『進めたほうがいい(計)』(55.2%)が5割台半ばで高くなっている。

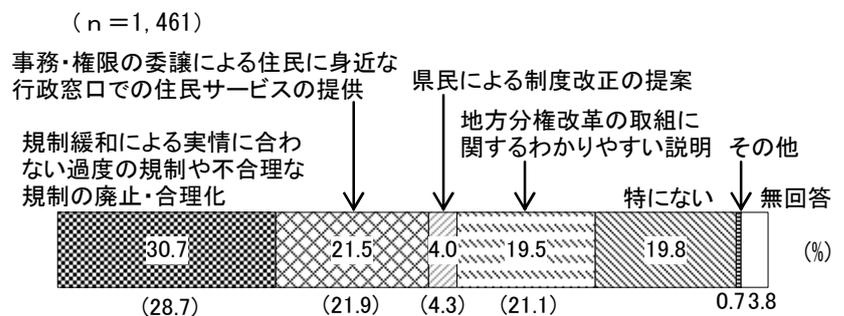
一方、「どちらかといえば進めないほうがいい」(1.2%)と「進めないほうがいい(現状の制度を維持するほうがよい)」(1.7%)を合わせた『進めないほうがいい(計)』(2.9%)はわずかとなっている。



注) 下段の () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

(2) 地方分権改革で期待する主な効果

県が進める地方分権改革の取組について期待する効果を聞いたところ、「規制緩和による実情に合わない過度の規制や不合理な規制の廃止・合理化」(30.7%)が3割で最も高く、以下、「事務・権限の委譲による住民に身近な行政窓口での住民サービスの提供」(21.5%)、「地方分権改革の取組に関するわかりやすい説明」(19.5%)が続く。



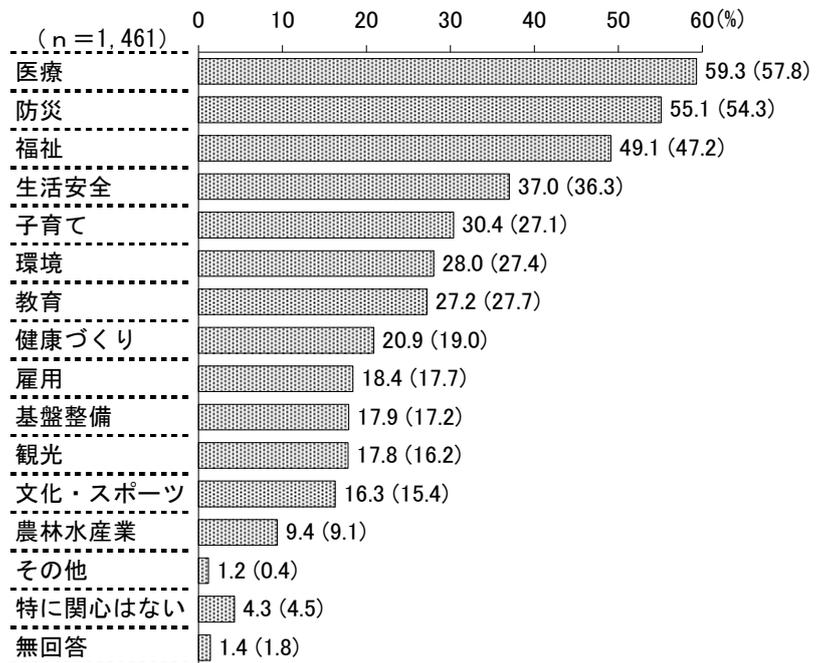
注) 下段の () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

9 広報・広聴活動について

(1) 関心のある県政分野

(複数回答：いくつでも)

関心のある県の施策や政策の分野を聞いたところ、「医療」(59.3%)が約6割で最も高く、以下、「防災」(55.1%)、「福祉」(49.1%)、「生活安全」(37.0%)が続く。



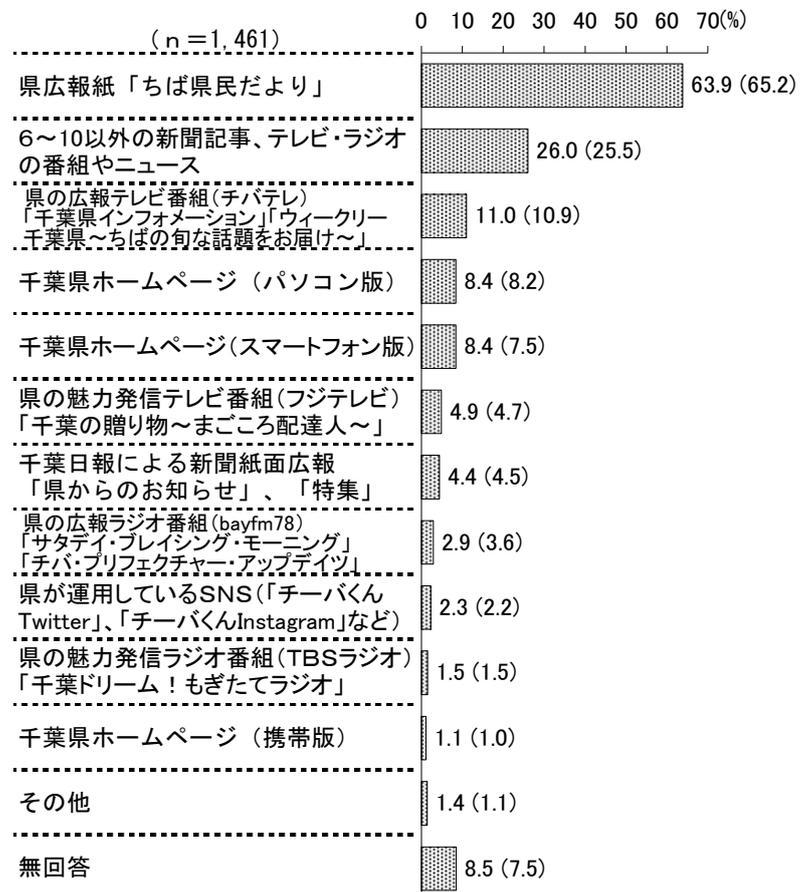
注) () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

(2) 県政に関する情報を得る手段

(複数回答：いくつでも)

県政に関する情報を得る手段を聞いたところ、「県広報紙『ちば県民だより』」(63.9%)が6割台半ばで最も高く、以下、「6～10以外の新聞記事、テレビ・ラジオの番組やニュース」(26.0%)、「県の広報テレビ番組(チバテレ)『千葉県インフォメーション』『ウィークリー千葉県～ちばの旬な話題をお届け～』」(11.0%)が続く。

(※)「6～10以外の新聞記事、テレビ・ラジオの番組やニュース」における、6～10とは、「千葉日報による新聞紙面広報『県からのお知らせ』、『特集』」「県の広報テレビ番組(チバテレ)『千葉県インフォメーション』『ウィークリー千葉県～ちばの旬な話題をお届け～』」「県の広報ラジオ番組(bayfm78)『サタデー・ブレイキング・モーニング』『チバ・プリフェクチャー・アップデート』」「県の魅力発信テレビ番組(フジテレビ)『千葉の贈り物～まごころ配達人～』」「県の魅力発信ラジオ番組(TBSラジオ)『千葉ドリーム!もぎたてラジオ』」を指す。

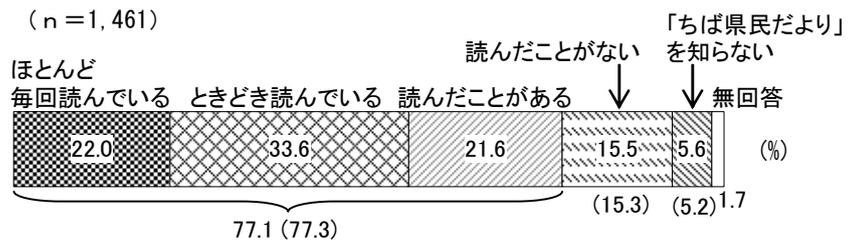


注) () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

(3) 県広報紙「ちば県民だより」の閲読状況

県広報紙「ちば県民だより」の閲読状況を聞いたところ、「ほとんど毎回読んでいる」(22.0%)、「ときどき読んでいる」(33.6%)、「読んだことがある」(21.6%)の3つを合わせた『読んだことがある(計)』(77.1%)が約8割で高くなっている。

一方、「読んだことがない」(15.5%)が1割台半ば、「『ちば県民だより』を知らない」(5.6%)が1割未満となっている。

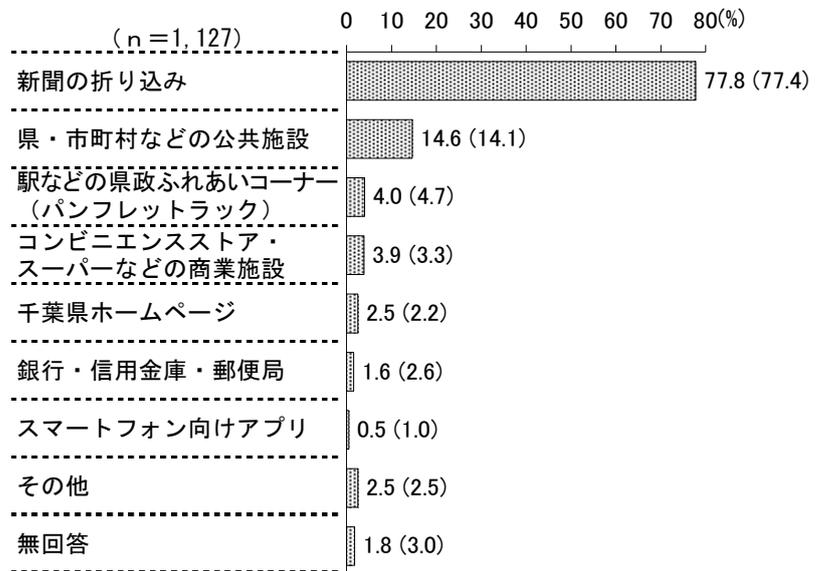


注) 下段の () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

(3-1) 「ちば県民だより」の入手場所について

(複数回答：いくつでも)

県広報紙「ちば県民だより」を「ほとんど毎回読んでいる」、「ときどき読んでいる」、「読んだことがある」と回答した1,127人を対象に、「ちば県民だより」をどこで入手しているか聞いたところ、「新聞の折り込み」(77.8%)が約8割で最も高く、以下、「県・市町村などの公共施設」(14.6%)、「駅などの県政ふれあいコーナー(パンフレットラック)」(4.0%)、「コンビニエンスストア・スーパーなどの商業施設」(3.9%)、「千葉県ホームページ」(2.5%)、「銀行・信用金庫・郵便局」(1.6%)、「スマートフォン向けアプリ」(0.5%)、「その他」(2.5%)、「無回答」(1.8%)が続く。

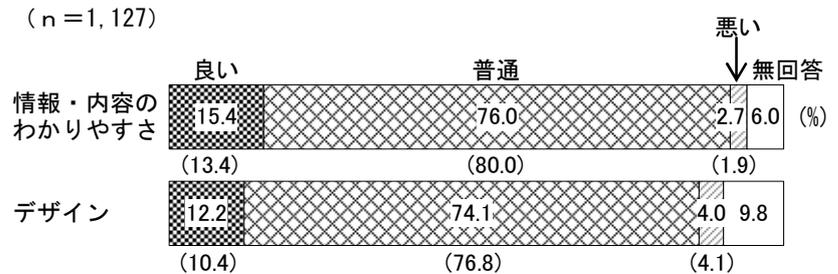


注) () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

(3-2) 「ちば県民だより」の内容について

県広報紙「ちば県民だより」を「ほとんど毎回読んでいる」、「ときどき読んでいる」、「読んだことがある」と回答した1,127人を対象に、「ちば県民だより」の内容について聞いたところ、〈情報・内容のわかりやすさ〉の「良い」(15.4%)が1割台半ばで、「普通」(76.0%)が7割台半ばとなっている。

また、〈デザイン〉の「良い」(12.2%)が1割を超え、「普通」(74.1%)が7割台半ばとなっている。

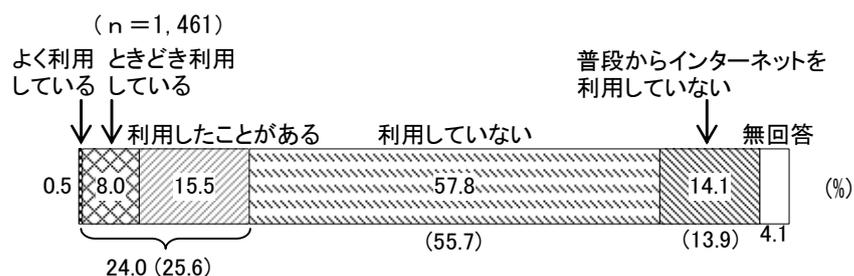


注) 下段の () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

(4) 千葉県ホームページの利用頻度

千葉県ホームページの利用頻度を聞いたところ、「よく利用している」(0.5%)、「ときどき利用している」(8.0%)、「利用したことがある」(15.5%)の3つを合わせた『利用したことがある(計)』(24.0%)が2割台半ばとなっている。

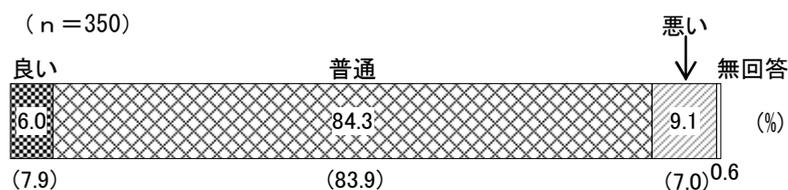
一方、「利用していない」(57.8%)が約6割、「普段からインターネットを利用していない」(14.1%)が1割台半ばとなっている。



注) 下段の () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

(4-1) 千葉県ホームページの見やすさ・使いやすさ

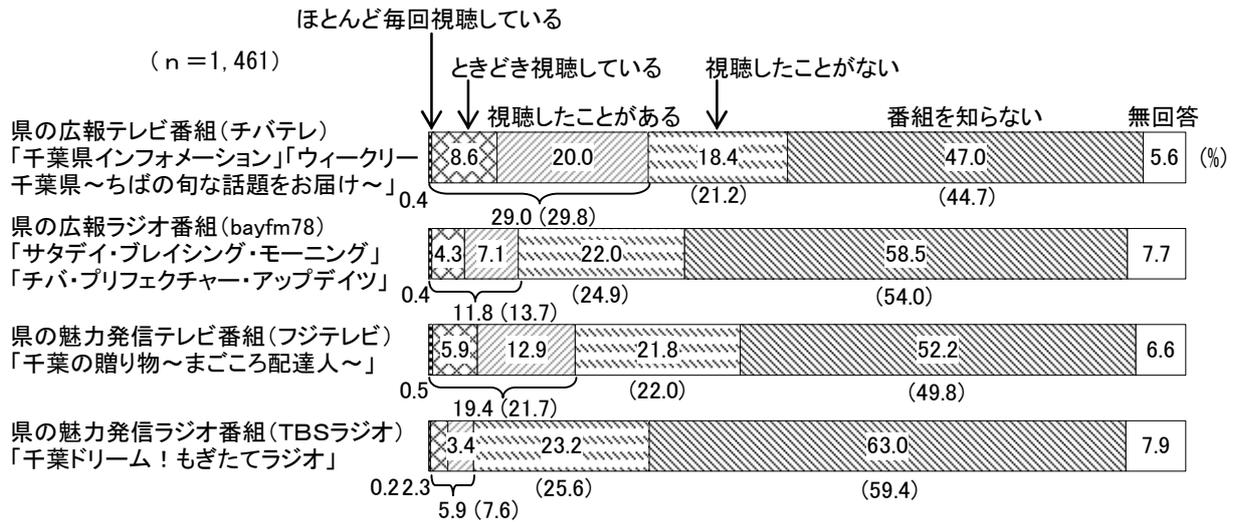
千葉県ホームページを「よく利用している」、「ときどき利用している」、「利用したことがある」と回答した350人を対象に、千葉県ホームページの全体構成の見やすさ・使いやすさについて聞いたところ、「良い」(6.0%)が1割未満で、「普通」(84.3%)が8割台半ばとなっている。



注) 下段の () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

(5) 県の広報・魅力発信番組の視聴状況

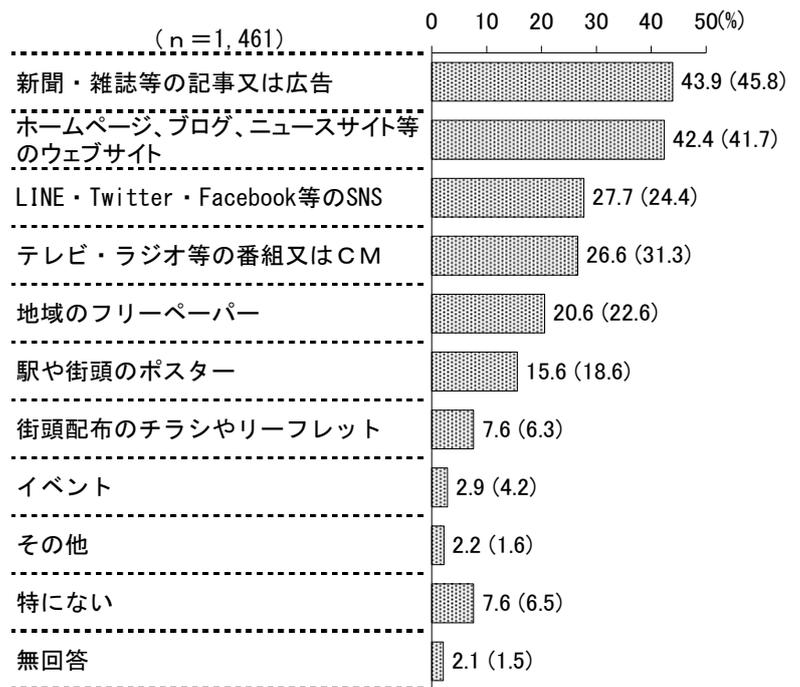
県の4つの広報番組の視聴状況を聞いたところ、「ほとんど毎回視聴している」、「ときどき視聴している」、「視聴したことがある」の3つを合わせた『視聴したことがある(計)』が最も高いのは、〈県の広報テレビ番組(チバテレ)『千葉県インフォメーション』『ウィークリー千葉県〜ちばの旬な話題をお届け〜』(29.0%)で約3割となっており、以下、〈県の魅力発信テレビ番組(フジテレビ)『千葉の贈り物〜まごころ配達人〜』(19.4%)が約2割、〈県の広報ラジオ番組(bayfm78)『サタデイ・ブレッシング・モーニング』『チバ・プリフェクチャー・アップデート』(11.8%)が1割を超えて続く。



(6) 情報の入手媒体

(複数回答: いくつでも)

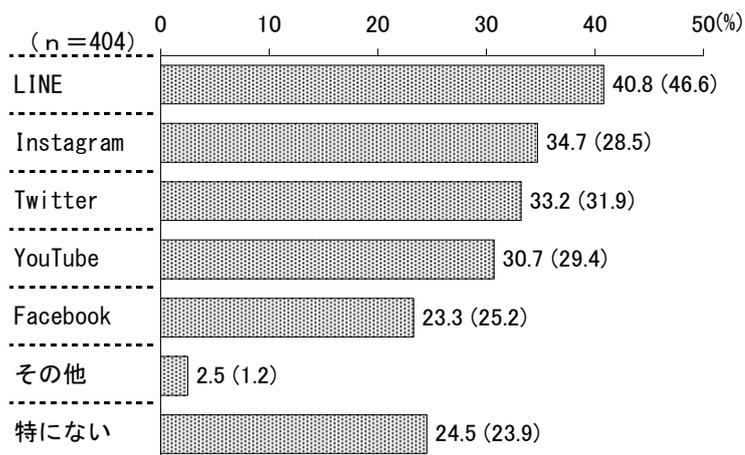
観光や食事、レジャーなどをする上で、どのような媒体を通じて情報収集をしているか聞いたところ、「新聞・雑誌等の記事又は広告」(43.9%)が4割台半ばで最も高く、以下、「ホームページ、ブログ、ニュースサイト等のウェブサイト」(42.4%)、「LINE・Twitter・Facebook等のSNS」(27.7%)、「テレビ・ラジオ等の番組又はCM」(26.6%)が続く。



(6-1) SNSの種類

(複数回答：いくつでも)

情報の入手媒体で「LINE・Twitter・Facebook等のSNS」と回答した404人を対象に、利用しているSNSの種類を聞いたところ、「LINE」(40.8%)が4割で最も高く、以下、「Instagram」(34.7%)、「Twitter」(33.2%)、「YouTube」(30.7%)が続く。

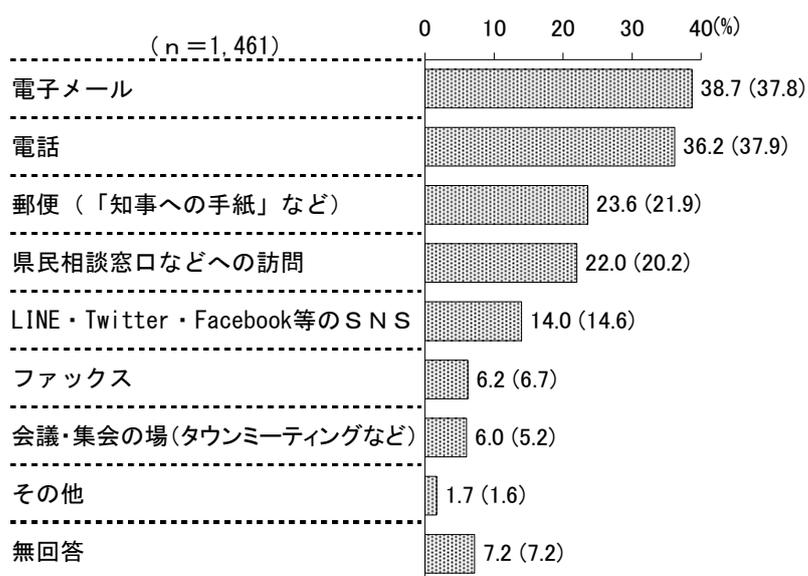


注) () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

(7) 県政への意見を述べる方法

(複数回答：3つまで)

県に対して意見(要望や相談、苦情など)を述べる場合、どのような方法で意見を述べたいか3つまで選んでもらったところ、「電子メール」(38.7%)が約4割で最も高く、以下、「電話」(36.2%)、「郵便(『知事への手紙』など)」(23.6%)が続く。



注) () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

【自由回答（抜粋）】

県や世論調査への意見を自由に記述していただいたところ、253人から延べ321件の回答が寄せられた。

記述いただいた内容は多岐に渡り、県政の各施策におおむね沿った形（合計36項目）で整理した。意見の多い項目に関して、一部抜粋してご意見を記載した。

■世論調査について

- 「県政への要望」はもっと回答個数を多くしてほしいです。3つじゃ足りない人は私も含めて多いと思います。（女性、20代、葛南地域）

■県政全般に関する要望

- 制度や支援体制の整備、充実だけで終わらせることなく、それらを持続的に機能させていける仕組みづくりをお願いします。（女性、30代、印旛地域）

■道路を整備する

- 県土の均衡ある発展を図るため銚子連絡道路の早期完成をお願いします。（男性、65歳以上、海匠地域）

■公共交通網（バス・鉄道）を整備する

- 車に乗れない様々な人のために、公共交通機関の増便をどうかお願い致します。（女性、20代、香取地域）

■次世代を担う子どもの育成支援を充実する

- 「チーパス」がより多くの店舗で使えるとよいと思います。（男性、30代、葛南地域）

■県政の情報発信について

- 市の広報と一緒に半年に一度くらい、イベント・旅の見所等を出して、楽しい話題も入れてくださったら楽しみです。（女性、65歳以上、東葛飾地域）

■交通事故から県民を守る

- 自転車の運転の仕方が危険で怖い。免許が必要だと思うほど怖い。乗る前に、右・左を確認してから運転するように。（女性、65歳以上、葛南地域）

■観光を振興する

- 千葉公園の大賀ハスのお祭りの様に、人を集めて、楽しめる場所を作ってもっと千葉の観光を積極的にPRして地域を豊かにして下さい。（女性、65歳以上、千葉地域）

■高齢者の福祉を充実する

- 高齢者の自動車運転免許の返納時の特典を県民にわかるように説明することが必要だと思う。（男性、65歳以上、東葛飾地域）

■犯罪防止対策をすすめる

- 子どもの安全、防犯対策に力を入れて下さい。防犯カメラなど子どもを守る対策を。（女性、40代、葛南地域）